様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月　３ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2021
課題番号：１７Ｋ０２４４８

研究課題名（和文）開発／再開発の表象に関する多角的視野からの研究

研究課題名（英文）A Multidisciplinary Study on the Representation of Redevelopment

研究代表者
渡邊　英理（Watanabe, Eri）

大阪大学・文学研究科・准教授

研究者番号：５０６３３５６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：（再）開発という視座から「戦後」の日本語文学の限界と可能性を検討した。まず、中上健次の文学の（再）開発表象を、（再）開発が可視化する既存の差別、新たに作り出す差別に留意し考察した。（再）開発の計画性や合目的性、「成長」「進歩」の観念に抗する中上文学のビジョンを解明した。また本土とは異なる「戦後」を歩んだ沖縄の基地の街の（再）開発を表象する崎山多美の文学から、「戦後文学」の限界性を追究し、石牟礼道子の（再）開発文学研究などにも着手した。また（再）開発と（脱）差別の問題系をジェンダー／セクシュアリティの視座から検討した。中上文学の研究は、現在、単行本化を進めており、2022年度に刊行予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、「戦後」の日本語文学を「開発」の夢や欲望など情動の宿る領域として定位し、（再）開発をめぐる履歴、記憶、歴史認識、思索や思想を追究するものである。今日まで続く開発主義という社会のあり方が、いかに形成されてきたのか。中上健次、崎山多美、干刈あがた、石牟礼道子など様々な路地を描く小説群／文学的言語に記録された社会の意識無意識を紐解き、その一端を描出した。また個々の文学的営為を（再）開発という視座から再文脈化し、その理論的思想的展開の一端を解明した。その成果は、開発主義という規範的な社会のあり方を相対化し、批判的に思考するための思想資源として活用可能と考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to examine the limitations and possibilities of the post-war Japanese literature from the representational analysis of development. Development visualizes existing discrimination and creates new discrimination. This study discusses the representation of development in Kenji Nakagami’s novels from this point. As a result, a vision of Nakagami’s literature was revealed that resisted the ideas of "growth" and "progress" as well as the design and purpose of development. In addition, I have explored the limitations of postwar Japanese literature through the analysis of Tami Sakiyama's novels, which represent the redevelopment of the post-war Okinawa base town that differs from the mainland in Japan. I also started the research of Michiko Ishimure. The representation of de-discrimination in development was also examined from the viewpoint of gender and sexuality. I am currently writing a book on the study of Kenji Nakagami , to be published in 2022.

研究分野：近現代日本語文学／思想研究

キーワード：（再）開発文学　戦後文学／日本近代文学　中上健次　崎山多美　干刈あがた　石牟礼道子　ジェンダー／セクシュアリティ　日本語文学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

東日本大震災と原発事故以後、戦後日本の「地域」の「開発」が再考されている。開沼博の「フクシマ論」、吉見俊哉の「原子力」をめぐる文化研究などに、その現在形が提出され、ダム建設／電力開発研究の町村敬志、水俣／公害研究の原田正純、宇井純、栗原彬らによって、そのエッセンスは蓄積されてきた。また若林幹夫は社会学から、原武史は政治思想史から、それぞれ郊外の「開発」を追究している。文学研究において、東日本大震災と原発事故のインパクトは、主に核の表象、「原爆文学」／「原発文学」という問題系で引き受けられ展開されてきたが、「(再)開発」というテーマでは十分な深まりと広がりを見せていない。こうした状況を踏まえ、「(再)開発文学」という問題設定を行い考察する必要性を感じたことが、本研究の第一の背景である。こうした文学研究における「(再) 開発」というテーマの「発見」に加え、本書の背景にあるのは、「戦後」フレームを再検討する学術的な流れである。一国史的な「戦後」という枠組みに対する批判的検討は、日本文学研究において「戦後文学」の再考として実践されている。そこで、本研究では、「（再）開発」の表象や、それへの思想的対峙という観点から、「戦後文学」の限界と可能性を検討することができないだろうかと考え、本研究を着想した。

２．研究の目的

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災および原発事故を受け「開発」の「夢」が再考されている。本研究は、この今日的かつ喫緊の課題を文学研究において展開し、「戦後」の日本語文学を、「開発」の夢や欲望などの情動の宿る領域として定位し、日本語文学における「(再) 開発」をめぐる履歴、記憶、歴史認識、その思索や思想を追究するものである。中上健次、崎山多美、干刈あがた、石牟礼道子など、さまざまな路地を描く群を主な対象に、「（再）開発」という視座から「戦後」の日本語文学の限界と可能性を検討することを目指す。

また、研究を通じて、個々の作家の文学的営為を「(再) 開発」という視座から再文脈化し、その文学的理論的展開を解明することを試みる。

３．研究の方法

（１）、複数の作家を対象とする多角的視野からの研究を遂行するために関連資料の収集と分析を行った。主な分析対象となる文学テクストの一次資料、二次資料の収集と分析、文学に描かれた「地域」の「(再) 開発」をめぐる一次資料、二次資料の収集と分析、当該地域に赴いての現地調査などを実施した。文献資料の収集は、おもに大阪大学図書館、静岡大学図書館、新宮市立図書館、中上健次資料室、国会図書館、鹿児島県立図書館、鹿児島市立図書館などで行なった。

（２）、開発と（再）開発の理論的整理を行いながら、「戦後」日本における「(再) 開発」の歴史について調査した。また、作品に描かれる個別具体の「(再) 開発」についても同様の調査を行った。調査の結果明らかとなった歴史的社会的文脈と対照させながら、当該作品の「(再) 開発」の表象を分析した。

（３）、個々の作家の文学的営為を「(再) 開発」の視座から、以下の対象作家に関して、再文脈化を行った。中上健次の「(再) 開発文学」の中心的な作品群を、「(再) 開発」をめぐる「思想文学」として論じた。本土とは異なる「戦後」を歩んだ沖縄の基地の街の「(再) 開発」を描く崎山多美の文学を考察した。崎山の「(再) 開発」をめぐる「思想文学」としての問題提起とと

もに、「戦後」文学の限界性を論究した。また、石牟礼道子の「(再) 開発」をめぐる「思想文学」の研究に着手した。「奄美二世」の作家で、移動者の視点から「(再) 開発」を描いた作家、干刈あがたについて、事典の項目執筆を行った。「戦後」「復興期」(開発期) の瀬戸内寂聴の文学を、「女の家」の建設の視座から考察した。

４．研究成果

この研究の重要な成果のひとつは、戦後生まれでは初の芥川賞作家で、和歌山県新宮市の被差別部落出身の作家である中上健次の文学を、人の移動と「地域」の「(再) 開発」を描く戦後文学として位置付けなおした点にある。すなわち、農村／地方から都市へ移動した人々を描く「都市小説」と、その移動と相関的な関係にある地域の開発を、自身の故郷、和歌山県新宮市の被差別部落の路地を舞台に描き出す「（再）開発文学」として中上文学を再文脈化し、その中核について一定の体系化を試みた。その作業を通じて、資本と国家の統治性に抗する、中上の文学的ビジョンを解明した。この研究の成果の一部については、『「戦後文学」の現在形』(平凡社、2020) に「生命の縁起、脱人間主義の「戦後文学」――中上健次『千年の愉楽』」を寄稿した。また、中上研究の成果については、現在、単行本化を進めており、2022 年度に刊行予定である。

つづいて、本土とは異なる「戦後」を歩んだ沖縄の基地の街の「(再) 開発」を描く崎山多美の文学を考察した。崎山の「(再) 開発」の暴力をめぐる「思想文学」としての問題提起とともに、「戦争」と「占領」による沖縄の「開発」を描きだす崎山文学が提起する「戦後」文学の限界性を論究した。崎山の研究については、『「戦後文学」の現在形』（平凡社、2020）に「「戦後」の向こう側へ――崎山多美『クジャ幻視行』」を寄稿した。

また、石牟礼道子の「(再) 開発」をめぐる「思想文学」の研究に着手した。従来検討されてこなかった中上健次と石牟礼道子の「(再) 開発文学」の関係性を示した。また、両者の文学がともに、「戦後」の国土開発／地域開発が「裏返された植民地的構造」(町村敬志・吉見俊哉) で行われ、戦前・戦中の植民地開発との連続性にあるという歴史認識を共有していることを論証した。この研究については、大阪大学国語国文学会で講演し、また、その内容の活字化を進めている。

「奄美二世」の作家で、移動者の視点から「(再) 開発」を描いた作家、干刈あがたについて、『日本近代文学大事典』の項目執筆を行った。「戦後」「復興期」(開発期) の瀬戸内寂聴の文学を、「女の家」の建設の視座から考察した。瀬戸内の研究については、『ユリイカ』2022 年 3 月号（特集――瀬戸内寂聴）に寄稿した。

開発主義はまた、植民地主義や脱植民地化の過程と深い関係性を取り結んでいる。また、開発主義の暴力性は、性差別的な暴力性としてしばしば発揮され、負の「男らしさ」とも結びついている。上記の研究は、その統治的、性差別的暴力に対する文学テクストの批評性をも読み解いた。また、こうした開発主義の暴力性の理論的考察を深めるため、ガヤトリ・スピヴァクのポストコロニアル・フェミニズムの思想を重要な参照項とした。この研究に関しては、『文学理論の名著 50』 （仮題）（平凡社、2022 年予定）に「解説」「ガヤトリ・チャクラヴォルティ・スピヴァク『サバルタンは語ることができるか』」を寄稿した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計10件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 渡邊英理	４．巻 3341
２．論文標題 欲望の装置としての同人誌がもつ構図ーー小平麻衣子「『文藝首都』ーー公器としての同人誌」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 週刊読書人3341号	６．最初と最後の頁 5-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 渡邊英理	４．巻 3473
２．論文標題 規格外の生と小さな声を肯定するーー温又柔「魯肉飯のさえずり」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 図書新聞3473号	６．最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 渡邊英理	４．巻 3372
２．論文標題 台湾の脱植民地化の記憶の分有ーー徐嘉澤「次の夜明けに」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 週刊読書人3372号	６．最初と最後の頁 5-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 渡邊英理	４．巻 1316
２．論文標題 「体を具なった」言葉から生きる場の痛みに触れるーー上間陽子「海をあげる」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 週刊金曜日1316号	６．最初と最後の頁 54-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渡邊英理	4．巻 50号
2．論文標題 「再開発と言葉ーー崎山多美『クジャ幻視行』「孤島夢ドゥチュイムニ」「クジャ奇想曲変奏」」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 「社会文学」50号	6．最初と最後の頁 24-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渡邊英理	4．巻 1246号
2．論文標題 亀裂や分断による「迷走」から「アジア的身体」の現在形へ ーー梁石日＋中上紀「タクシーガール」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 「週刊金曜日」 2020年8月30日号	6．最初と最後の頁 54-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渡邊英理	4．巻 3366号
2．論文標題 「記憶そのものをめぐる旅　涯テノ詩聲　詩人・吉増剛造展」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『図書新聞』2018年9月8日号	6．最初と最後の頁 第8面
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 渡邊英理	4．巻 3383号
2．論文標題 「「忘却の口」＝他なる記憶の穴へとはいりこむ」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『図書新聞』2018年1月19日号	6．最初と最後の頁 第8面
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 渡邊 英理	４．巻 9月23日号
２．論文標題 路地なき後の世界の現代性を示す――中上紀『天狗の回路』	５．発行年 2017年
３．雑誌名 「図書新聞」	６．最初と最後の頁 8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 渡邊 英理	４．巻 第76集
２．論文標題 経済専制とグローバル時代の日本語文学	５．発行年 2018年
３．雑誌名 『昭和文学』	６．最初と最後の頁 219-221
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　7件／うち国際学会　5件）

１．発表者名 Eri WATANABE
２．発表標題 Nakagami Kenji as “Contemporary Literature”
３．学会等名 アメリカNY コロンビア大学　Weatherhead East Asian Institute 70th Anniversary Event International Workshop: New Directions in Japanese Studies（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 渡邊英理
２．発表標題 現代沖縄文学における記憶の表象と行為遂行性：崎山多美の文学から
３．学会等名 韓日記憶ワークショッププログラム グローバルな記憶空間としての東アジア：再現と遂行性(Representation and Performativity)@韓国ソウル西江大学（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 渡邊英理
２．発表標題 開発と言葉
３．学会等名 2019年度社会文学会秋季大会の大会シンポジウム「現代沖縄文学のたくらみ」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 渡邊 英理
２．発表標題 Lectures On Kenji Nakagami 「中上健次とアメリカ」
３．学会等名 アイオワ大学International Writing Program（IWP）50周年記念「A Half Century Of Japanese Writers in Iowa」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 渡邊 英理
２．発表標題 宮崎の沖縄奄美タウン、波島と公共性
３．学会等名 日本国際文化学会第16回全国大会シンポジウム「＜１９４０年＞を起点に考える＜２０２０年＞の越え方」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 渡邊 英理
２．発表標題 作家・中上紀氏との対談「中上健次と「アメリカ、アメリカ」」
３．学会等名 2017熊野大学夏期セミナー「南方熊楠と中上健次を探る」（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 渡邊 英理
２．発表標題 現代文学と古事記――中上健次・谷川雁・上橋菜穂子
３．学会等名 新宮市立図書館　講演会（招待講演）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計6件

１．著者名 紅野謙介・内藤千珠子・成田龍一	４．発行年 2020年
２．出版社 平凡社	５．総ページ数 469
３．書名 〈戦後文学〉の現在形	

１．著者名 三原芳秋、渡邊英理、鵜戸聡=編著	４．発行年 2020年
２．出版社 フィルムアート社	５．総ページ数 276
３．書名 『クリティカル・ワード　文学理論』	

１．著者名 岩崎稔、成田龍一、島村輝	４．発行年 2018年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 320
３．書名 アジアの戦争と記憶	

１．著者名 渡邊英理	４．発行年 2019年
２．出版社 春風社	５．総ページ数 428
３．書名 『翻訳とアダプテーションの倫理』「動物とわたしの間」	

１．著者名 渡邊英理	４．発行年 2019年
２．出版社 臨川書店	５．総ページ数 232
３．書名 『戦後日本を書きかえる』第三巻「高度経済成長の時代」「開発と公共性」	

１．著者名 渡邊英理、岩崎稔、成田龍一、島村輝、小森陽一、汪暉、高榮蘭、林少陽、趙京華、王中忱、孫歌、竹内栄美子	４．発行年 2018年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 320
３．書名 アジアの戦争と記憶	

〔産業財産権〕

〔その他〕

『図書新聞』3383号（2018年1月19日）「「忘却の口」＝他なる記憶の穴へとはいりこむ」
https://www1.e-hon.ne.jp/content/toshoshimbun/3383.html

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	コロンビア大学			
韓国	西江大学			